

# East *meets* West



ケネディ・センター前に集結した「ジャズのスター」たちはまるで満開の桜のように華やかだった。写真左から大坂昌彦(ds)、上村信(b)、原朋直(tp)、井上祐一(p)、川崎哲郎(ts)、鈴木良雄(b)、秋吉敏子(v), Id、峰厚介(ts)、増尾好秋(g)、ケイ赤城(d)、アキラ・タナ(ds)

米国首都ワシントンにある日米友好のシンボル、桜並木にほど近いケネディ・センターにおいて「East Meets West〜ジャパニーズ・ジャズ・ジャム」と題したイベントが開催された。日本の大坂昌彦、原朋直らと米国在住の秋吉敏子、増尾好秋、アキラ・タナらが顔を合わせ、会場をおとすれた観客の心に満開の花を咲かせた。

●内田 修 Photo by Tomoaki Sukezane, Courtesy of King Record

「ワシントン・ポトマック河畔の桜」といえば、日米友好のシンボルとしてあまりにも有名だが、その桜並木に程近いケネディ・センターでは、毎年この季節「桜まつり」の一環として日本文化（主として伝統芸能）の紹介が行われてきたという。

もっともジャズ・ファンとしては、「ブルースアレイ」の名を知る程度で、まさかこの街を訪れる機会があるなど夢にも思ってもみなかった。ところが嬉しいことに今年は秋吉敏子、アキラ・タナ、増尾好秋、ケイ赤城等アメリカ在住の日本人ジャズメンに加えて、日本からも峰厚介、鈴木良雄、更には大坂昌彦〜原朋直クインテットも参加する「ジャズ・コンサート」が2日間開かれると聞いて、じっとしておられなくなった。

3月28日(金)、コートの襟を立て、マフラー、手袋も季節はずれでないNYから、路線バス感覚の「ワシントン行きシャトル便」に飛び

乗って南にわずか1時間、そこはTシャツ姿が違和感のない春一色の別天地だった。早速出演者に提供された「全日空ホテル」を訪ねて、居合わせた峰厚介、ケイ赤城、そして世話役の小川マネジャー等の酒好きを引張り出して恒例の前景気一杯は欠かせない楽しみであった。

翌日の午後、日本より一足早い満開の桜を静かに愛でるアメリカ人観光客でにぎわう河畔を散策しながらケネディ・センターに向かう。素気ない程一切の装飾を排したその外観は、すっきりとモダンで好ましい。「East Meets West, Japanese Jazz Jam」と題されたコンサートの会場は最上階にあって眺望もみごとな「テラス劇場」。ここは1976年日本から寄贈され、重厚で落ち着いた内装は芸術鑑賞にぴったりの雰囲気だった。つめかけた聴衆の殆んどが初老のアメリカ人夫婦で占められたのも心暖まる光景だった。